



関川村

第122号

令和3年2月15日発行
2021

議会だより



無病息災、コロナ退散を祈念して作りました

令和3年1月17日(日) 女川河川敷にて南中集落のみなさん

- 10・11月臨時会議、12月定例会議、12月臨時会議 2 ページ
- 一般質問 5名登壇 4 ページ
- 議員活動報告 9 ページ
- 住民懇談会 10 ページ
- 村民の声 高橋沙和さん 12 ページ



議会ホームページもご覧ください。
<http://www.vill.sekikawa.niigata.jp/>

発行 関川村議会 発行責任者 議長 渡邊秀雄
編集 議会広報常任委員会 TEL (0254) 64-1494

令和2年関川村議会10月臨時会議

令和2年10月5日に第8回臨時会議が開催されました。

各会計の補正予算案件4件、財産の取得案件2件が上程され、全て原案どおり可決されました。主な内容は次のとおりです。

一般会計補正予算

■歳入歳出

2350万円を追加し総額57億2030万円としました。

衛生費

・保健衛生総務費

1020万円の増額

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、医療施設の改修にかかる費用の補助です。

・予防費

430万円の増額

インフルエンザワクチン接種費用の一部助成です。

商工労働費

・観光振興費

700万円の増額

関川版GOTOトラベルの補助です。

令和2年関川村議会11月臨時会議

令和2年11月25日に第9回臨時会議が開催されました。

条例改正案件4件、発議案1件が上程され、全て原案どおり可決されました。主な内容は次のとおりです。

条例改正

関川村議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

関川村特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

関川村一般職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

新型コロナウイルス感染症の影響で民間企業の支給割合が下がっていることから、村議会議員、村長、副村長、教育長、職員の期末手当を一律、令和2年12月分から「0.05月分（5/100）」引き下げました。

発議案

拉致被害者全員の即時帰国を求める意見書の提出について

提出者 菅原 修 議員
他8名の賛成議員による発議案が提出され採択されました。衆参両院議長、内閣総理大臣を始め関係機関に意見書を提出することとしました。

意見書の要旨
国会並びに政府におかれましては、今後とも拉致問題を「最優先、最重要課題」と位置付け、米国をはじめとする国際社会と連携を強化し、圧力に重点を置いた姿勢を貫きつつ、対話も視野に入れたあらゆる手段を講じて、拉致被害者全員の即時帰国を実現するよう強く要望する。

一般質問

菅原 修 議員



鳥獣被害防止対策

議員

全国や県内でクマの目撃や人的被害が相次ぐ中、村でも昨年(令和2年)10月1日に2件の人的被害が発生し、その後被害者1人が亡くなるという事態を受け、村民の不安をなくすために様々な対策を検討いただいた。その中で猟友会は見回りやわなの設置で十数頭のクマを駆除した。しかし、猟友会は、クマのほかにもサル、イノシシ、ニホンシカ、カワウ、アオサギ、カラス、タヌキ、ハクビシン等の駆除があり負担が大きいです。そこで、次のことについて村長に伺う。

- ① 猟友会への補助金、委託金等の増額を支援できないか。
- ② わなにICT(情報通信技術)を導入できないか。
- ③ 猟友会が高齢化や会員数が減少している。新規の狩猟免許取得費用の全額を補助する考えはないか。

村長

① 村の有害鳥獣対策はクマやイノシシといった人的被害のある危険性のあるものの他に農作物に被害を与えるタヌキやハクビシンといった小動物、また漁業に甚大な被害を与えるカワウの捕獲や駆除活動において猟友会の皆様には大変ご尽力をいただいています。

猟友会では年間を通してこれらの有害鳥獣の駆除、巡回活動、ニホンザルの駆除などの活動費用を運営費補助と併せて支払いをしています。

昨年は特にクマの出没が頻発となり、人的被害も発生したことからの設置や巡回パトロールなど、例年にも増してご負担をかけています。緊急的にお願いした巡回パトロール経費は、今回補正予算で対応します。

委託料の増額も単価の高い国の交付金事業は、村上市をはじめ他の自治体も導入していますので、村も駆除費用の増額に向けて導入

すべく猟友会の皆様と協議を進めます。

また、わな設置に関する実技的な研修など、間接的な支援を実施したいと考えています。

② ICT導入については、昨年十一月にNTT東日本株式会社との協力により、捕獲おりにかかった際にセンサーが反応し、捕獲の情報関係者の携帯電話などへメールで通知するシステムの実証実験を行いました。

今後効果について猟友会と検証を行い、コスト面など導入に向けた検討を猟友会と進めていきたいと考えています。

③ 免許取得費用に対しては、県が行っている第一種猟銃免許取得と猟銃の所持許可等の取得のための費用の全額を、県と村で二分の一ずつ補助をしています。

わなの免許取得費用は、村の単独補助として半額助成して

います。今後は、猟友会の協力を得て地域ぐるみで取り組みなど、村の有害鳥獣対策として有効な取り組みと認められる場合は全額補助を含め補助の拡大を検討していきます。

今後とも村・県の補助事業を有効に活用し、免許取得費用の軽減を図りながら有害鳥獣対策の担い手確保に努めたいと考えています。



実証実験を行った捕獲おり

一般質問



近 壽太郎 議員

○第6次後期総合計画・ 総合戦略の経過と 今後の審議会のあり方は

議員

今回の第6次後期総合計画の策定は、令和元年12月の一般質問に対し、第6次後期総合計画を一年延長して、総合戦略と一緒に策定する旨の答弁があった。今年度がその時期にあたるが、年度当初からのコロナ禍においての審議内容と経過について伺う。

村長

総合計画については、今年度に入り、新型コロナウイルスの感染が拡大する中で、まずは感染防止対策を最優先とし、委員が一堂に会した会議は断念し、書面による意見交換の審議にしました。

総合戦略については、昨年6月に重要業績評価指数の現状を示し、委員から書面で意見をいただきました。第6次後期総合計画及び第2次総合戦略については、前期計画の進捗状況や委員の意見を参考にしながら素案を策定しました。昨年11月には、内容について委員の方々から意見をいただき、

現在それを基に所要の調整を進めています。

議員

審議会の定数と選任方法は現状でよいか。

村長

平成29年度から10名減らし30名の方に審議委員をお願いしています。他の自治体に比べ多い人数です。これは多くの住民から意見をいただきたいという思いでの設定です。選定方法は、地域に偏ることがないように各コミュニティから推薦をいただいています。

議員

審議会に指導・助言等できる識者を採用する考えはないか。

村長

委員を各地区から推薦いただいているのは、より多くの村民の意見をお聴きし、行政だけではなく村民みんなで作る計画にしたいという思いと、村の対策事業などについて関心を持ってもらいたいという二つの思いがあります。これまでの審議会は、少数で発言しや

すい雰囲気の中で村の事業を説明し、意見を伺いました。こうした審議のスタイルから指導・助言できる識者を委員として採用していませんが、識者、外部目線での助言や意見という視点も重要ですので、新潟大学の先生をはじめ、産官学など各分野の皆様から個別に意見を求め、それを今回の計画に反映させることにしています。

議員

委員の方が内容をしっかりと把握して審議できる環境にない。この村のことを学び、これからのことを考えるという点では、ちょっと乏しい気がする。委員の方々が将来を見据えて希望のある村づくりを計画し戦略を考えるには直接識者と話し合い、学べる場があれば、もっと活性化できると思うが。

村長

委員の方々は、それぞれの地域でそれぞれの課題があります。それを踏まえた中での意見交換が反映でき

るような設定にしてあります。専門家の方にはそういう視点での意見を個別に伺っています。

今後の審議会の進め方は、委員の方々の意見を聞きながら、実のある委員会になるように進めたいと思います。

議員

大切な計画（指針）なので、第7次総合計画・総合戦略に向けて検討してはどうか。

村長

次期の審議にあたり、議員の意見を踏まえた形かどうかといった審議方法がよいのか、委員の方々に考えてもらい、新しい審議スタイルで審議できるようにしたいと思えます。

議員

委員の方々の意見は大切ですが、リーダーシップをとっていくのは村長だと思うので、識者を交えて審議が行えるよう、村長の気持ちや委員の方々に伝えてもらいたい。

一般質問



伊藤敏哉 議員

○旧小・中学校の
廃校施設等の現状と
今後の利用は

議員

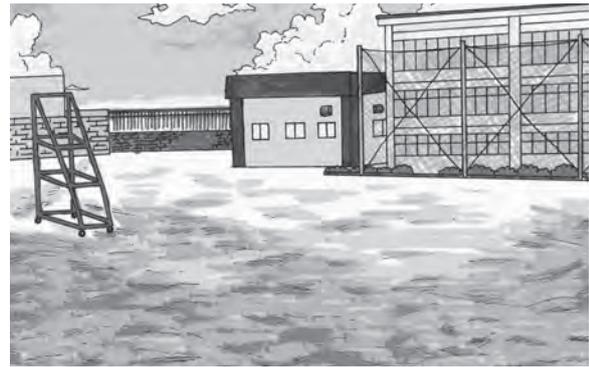
現在の小・中学校は平成21年・16年に統合され、使われなくなった廃校施設はそれぞれ10年・15年が経過した。

「関川村公共施設等総合管理計画」(以下、「計画」という。)では「統合前の小中学校が9施設あるが、利用されていないもの、あるいは老朽化が激しいものなど様々である。一方で災害時の避難場所に指定しているものもあるため、地域との合意の下で施設のあり方を決定するものとする。また、これらによって空いた土地等は活用・処分を促進する。」としている。

当計画は平成27年度から令和5年度を計画期間としている。策定から5年が経過し、老朽化も進み、今後は倒壊が発生しないよう安全対策も必要になってくると思う。

計画策定からこれまでの活用・処分の実績と、今後の予定や方針、損壊・倒壊

の危険性の状況、避難所指定の方針、プールの消防水利指定の方針について伺う。



村長

今後の活用と処分の方針について、土沢、川北、安角のふれあい自然の家(旧小学校)は地域活動の場になっており、引き続き地域の活動拠点として利用していただきたいと考えています。このほか利用されていない施設でも村の避難所に指定しているので、その点も考慮しつつ、老朽化の状況を勘案して活用方法、処分を検討します。

現在、老朽化した避難所施設の代替施設として、わかぶな高原スキー場のスキーセンターを活用できないか検討しています。

損壊、倒壊の危険性のある施設は、これまで順次解体処分を行ってきました。そのほか現存の施設では倒壊等の差し迫った状況にはないと考えています。

プールは、維持管理費と事故の危険性を考慮し、水抜きして空にしているものと、川北、土沢、沼のプールは地元の要望を受け消防水利として水を張っていきます。今後も地元の意見を聞きながら対応していきます。

教育課長

旧土沢小は竹灯籠作りや地域の茶の間など地域活動の拠点としての利用と、古民具の保管場所として利用しています。

旧川北小は「放課後子ども教室」として60名以上の児童が利用しています。旧給食室は地元業者に通年で貸し出しています。

旧女川小は埋蔵文化財整

理室として発掘調査の出土品の整理、保管場所として利用しています。

旧女川中の校舎は老朽化のため、平成30年度に解体しました。体育館は地域の健康づくり施設として貸し出しています。

旧女川保育園脇の教員住宅も平成30年度に解体しました。

旧安角小はタランペクラブや谷人倶楽部の活動拠点IVUSAの受入れ施設として活用しています。

旧沼小は公民館の備品類の保管場所として利用しています。

旧金丸小は体育館を平成30年度に解体、グラウンドは地元農家に貸与しています。

村長

これまで村の施設は様々な使い方をしてきましたが、福祉施設も含めて利用の仕方を再検討する時期に来ていると考えています。なるべく縮小の方向で、民間手法の活用も含めて検討を進めています。

一般質問



高橋正之議員

議員

◆ 議員
 昨今、野生鳥獣による人的被害や農作物被害が深刻な社会問題となつていゝる。産業建設常任委員会では昨年10月中旬に、阿賀町へ有害鳥獣対策の研修を行つた。鳥獣被害対策は、サル、イノシシ、クマが主であり、特にサルの実態を把握するため、GPS受発信システムを導入し、サルの位置情報を把握している。現在では、21群れにGPS発信機を装着して、位置情報や活動エリアは、パソコンやスマートフォンから随時把握することができゝる。

○ 有害鳥獣防止対策の取組
 どう進めるか
 また、今年度はICTを利用した捕獲おりを導入し、電気柵や追い払い用エアガン、動物駆逐用の花火等の購入助成を行うなど、駆除や被害防止に努めていゝる。人員体制は、阿賀町有害鳥獣対策連絡協議会を結成し、地域おこし協力隊1名、集落支援員4名、狩猟会員58名、庁舎内に正職員1名、臨時職員1名の2名体制である。

村長

◆ 村長
 村でも、行政、地域、猟友会が連携し、有害鳥獣防止対策のために、今以上に取り組むことが急務と考ゝえる。そこで何う。

- ① NNT東日本株から有害鳥獣対策についての提案を基に、猟友会と協議を進め、方向性を検討した結果は。
- ② ICTを活用した鳥獣害対策の実証実験で、昨年11月までの結果と本格運用は。
- ③ 村単独の補助事業で、動物用の駆逐用花火、追い払い用のエアガンの購入助成はできないか。

◆ 村長
 ① 有害鳥獣対策におけるICT技術を使った取組が各地で盛んになる中で、各おりにセンサーを取り付け、作動時には捕獲情報を静止画とともに通知されるシステムのの実証実験を行つたところだ。今回、実証実験を行つたシステムは、捕獲活動の負担軽減や効率化につながる資機材の情報収集を進め、村の実態に合つた

機器の中から具体的な取組を、猟友会と一緒に検討していききたいと考ゝえていゝます。

② ICT活用の実証実験の結果と本格運用ですが、実証実験期間中のクマの捕獲頭数は、下土沢で1頭のみでした。詳細な検証はこれからです。どれくらいわなの見回り活動に効果があつたか、猟友会から意見を聞き取る予定です。引き続き情報収集を進めながら、本格運用について検討してまいります。

③ 動物駆逐用花火、追い払い用エアガンの購入助成についてですが、有害鳥獣の被害軽減対策として、追い払い活動は有効な対策です。次年度以降、試験的に猟友会へロケット花火を支給し、出没が多発する集落でどんな使い方が有効か猟友会とも相談し進めていゝきます。また専門家

の意見も聞きながら検討を進めていききたいと思ひます。なお、追い払い用エアガンについては村で貸し出しは考ゝえていゝますが、利用者も少なく地域ぐるみの取組を前提にすると、むしろロケット花火の取組に重点を置くほうが望ましいのではないかと考ゝえていゝます。



電気柵

一般質問



鈴木紀夫 議員

○里山資本 森林空間の総合利用

議員

森林経営管理法が制定され、自治体が森林行政の事業主体との位置づけとなり、閔川村森林整備計画が施行された。現在は木材価格、需要、高齢化など様々な要因で森林事業従事者が減り、未整備林が増えた。整備された森林は緑のダムと言われ防災の役目、CO2削減の環境問題、有害鳥獣の緩衝帯、水源などの役割があるが、森林資源の活用をこれだけに留めず、森の幼稚園、森林セラピー、フォレストアドベンチャー、里山整備で出た間伐材による薪やペレットの製造販売や小規模バイオマス発電など、教育、健康、観光、森林産業による雇用など、森林活用を提案していききたいが、村長の所信は。

村長

里山は治山治水といった防災面、鳥獣被害の軽減など、多面的な機能を有しています。また、教育、健康、観光といった新たな森林ビジネスへの期待も持てる

捉えています。特に、里山は鳥獣被害対策としての役割を果たしてきた重要な場所であり、有害鳥獣被害の軽減目的に、集落ぐるみで対策を試験的に行いたいと考えています。

教育の分野では、伐採や植樹活動の多様な体験等を通じて、森林環境教育の機会を子供たちに提供していきます。今後も教育委員会と学校が連携して新たな取組の可能性を探り、工夫を凝らしながら村の豊かな森林空間を生かした体験活動を進めたいと考えています。

健康や観光の分野では鷹の単キャンプ場、大石オートキャンプ場などを中心に、村民の皆様にご利用いただいていた森林空間の提供をしています。キャンプ場施設ばかりでなく、村の豊かな自然の活用にもつながっていききたいと考えています。

薪、ペレット販売やバイオマス発電など、産業としての活用は極めて魅力的ではありますが、事業の採算

性を含め民間企業の視点からしっかりと検討していく必要があると思っています。具体的な森林の活用提案をしていただければ、しっかりと対応していきます。

議員

森林環境譲与税の基準試算で800万円が村に譲与されたが、その用途と執行状況は。

農林課長

森林経営管理意向調査、林地台帳システム内のデータ修正業務が完了し、今後森林情報管理システムを新たに購入する予定です。また、来年度の林業振興祭の会場の準備費用も予定しています。残りの330万円は基金に積み立てる予定です。

議員

新しい森林産業を提案しても農林課等のマンパワー不足が懸念される。令和6年より森林環境税が施行されれば、森林環境譲与税の増額が見込める。これを人件費にあて専門員を雇用できないか。もしくは、県の

森林専門職員を派遣してもらう考えはないか。

村長

森林空間の利用の具体的な提案を受け、総合的に検討し、もし対応が必要であれば、他の部署の人員削減をしてでも職員の確保をします。雇用や派遣は、提案の出身によつて弾力的な対応をしていききたいと考えています。

議員

2030年までに達成するために掲げた目標のSDGs。脱炭素社会やカーボンニュートラルなど、環境への対応が謳われている。今、他の自治体に手本を示せるような里山事業に取り組んでもらいたい。

村長

村の林業の多くを、閔川村森林組合に担っていたのが現状ですが、新しいのが現状ですが、新たな事業を提案していたら後押しをします。新たな情報収集もします。新たな切り口で事業の展開をお互いに検討しながら森林事業に取り組みます。

住民懇談会

関川村議会と住民の皆様との懇談会を開催しました。

9コミュニティを中心に、合計11会場で、現在実証運行中の「デマンドタクシー」をテーマに様々な意見や要望をいただきました。

皆様からの貴重なご意見は、今後の本稼働に向けて関川村地域公共交通活性化協議会で反映されるよう、「意見・要望書」としてまとめ、村に提出しました。

大勢の住民の皆様にご参加いただき、感謝申し上げますとともに、関川村議会としまして、今後も住民懇談会を定期的に行うことにより、より多くの皆様のご意見を村政に反映できるよう取り組んでまいります。

なお、以下今回の懇談会でいただいたご意見を紹介させていただきます。

(※紙面上の都合により割愛させていただいたご意見もありますが、行政への要望には、更に詳細に記載しておりますのでご了承ください。)

デマンド タクシーへの 意見要望

① 対象地域について

◆現在は、下関と上関（六本杉・雲母をの除く）は対象外であるが、必要と思われる住民も見受けられるため、本稼働の際に村内全域を対象としてもraitたい。

② 運行日について

◆地区による曜日指定、時間指定が利用者の利便性に適応出来ていないように感じられる。



デマンドタクシー

◆週1回の運行は回数が少ない。

③ 運行時刻について

◆医療機関の予約時間に合わず、運行本数が少ない。
◆自宅を出発する時間が分からないため、自宅での待ち時間が多い。
個人の要望に合った運行を希望する。

④ 運賃について

◆村内一律の運賃体系のため、乗車距離が長い利用者には運賃が安いとの意見があるが、近距離の利用者からは高いとの意見がある。

⑤ 予約方法について

◆集落内や身近に予約の「取次ぎ役」がいれば、気軽に遠慮なく利用者が増えるのではないか。
◆電話以外の予約方法も検討してはどうか。

⑥ 周知の方法について

◆現状、利用者が少ないのは周知されていないからではないか。
高齢者に対しては、家族や医療機関とも連携した周知が必要である。



住民懇談会（下関）



住民懇談会（高田）

村民の声

Uターン移住を経験して

高橋 沙和さん
(大石)



夫も賛成してくれ、私たちは母と祖母の住む私の実家に同居させてもらうことになりました。

私が移住して一番感じているのは、安心感です。子育てを共有してくれる家族の存在に加え、家から一歩外に出れば自然の中で遊べる環境、また、地域の方々のあたたかさによるものだと感じています。都市部では、「子どもの声がうるさい」とか「ベビーカーが邪魔だ」などという、「子連れヘイト」がしばしば問題となります。実際に東京で子育てをしてみても、ヘイトとまではいかなくとも、子どもに対して冷たい視線が向けられていると感じたこともありました。子どもを連れて歩いている時は、常に他人の目を気にして、怯えていたように思います。関川村に住み始めてすぐの頃、子どもが騒いでいると、近所の方から「子どもの声が聞こえるだけでうれしい」と言ってもらえたことがあり、こんなにも子どもに対しての捉え方が違うのかと驚きました。子どもを大切に思ってもらえる雰囲気、おおらかに見守ってくださいる地域の方々の存在は本当

にありがたいことだと思っています。移住してきてまだ数ヶ月ですが、私は心にゆとりを持って、穏やかにすごせるようになりました。子ども達は外でよく遊び、よく食べるようになりました。あたたかい大人達に囲まれて、のびのびと、天真爛漫に育っています。私自身、関川村で生まれ育ち、こうして帰って来られたことに心から感謝しています。子ども達にもいつか「関川村で育つて良かった」と思ってもらえるよう、「親の幸せが子どもの幸せ」という言葉をいつも心に留め、関川村での生活を楽しもうと思っています。

私たちは家族は昨年十月に東京から関川村にUターン移住をしました。私は関川村大石で生まれ育ち、大学進学を期に上京し、十三年ほど東京で暮らしました。現在三歳の女の子と一歳の男の子を育てています。子どもが産まれてから、いつか都会の喧嘩をはなれて、地元のゆったりとした環境で子育てをしたいと思っていました。二人目が生まれて頃、二人育児が想像をはるかに上回る大変さで、精神的に参っていました。そんな時、ある人に言われた「親の幸せが子どもの幸せ」という言葉に背中を押され、Uターンを決意しました。夫も賛成してくれ、私たちは母と祖母の住む私の実家に同居させてもらうことになりました。

然の中で遊べる環境、また、地域の方々のあたたかさによるものだと感じています。都市部では、「子どもの声がうるさい」とか「ベビーカーが邪魔だ」などという、「子連れヘイト」がしばしば問題となります。実際に東京で子育てをしてみても、ヘイトとまではいかなくとも、子どもに対して冷たい視線が向けられていると感じたこともありました。子どもを連れて歩いている時は、常に他人の目を気にして、怯えていたように思います。関川村に住み始めてすぐの頃、子どもが騒いでいると、近所の方から「子どもの声が聞こえるだけでうれしい」と言ってもらえたことがあり、こんなにも子どもに対しての捉え方が違うのかと驚きました。子どもを大切に思ってもらえる雰囲気、おおらかに見守ってくださいる地域の方々の存在は本当



にありがたいことだと思っています。

編集後記

節分も過ぎ、少しずつですが本格的な春に向かっていくことを感じる今日この頃です。

先日テレビの報道番組で世界各国の人たちに「コロナ禍で学んだことは何ですか。」というインタビューをしているのは、たしかイギリスの女性のこの言葉。

「コミュニティの大切さ、ありがたさを実感しました。人と人とのつながりが生きる力を与えてくれることを学びました。コロナ禍が終わってもこのことを大事にしていきたい。」

私は何を学んだのか、今自問しています。(敏)

議会広報常任委員会

- 委員長 加藤 和泰
- 副委員長 近 壽太郎
- 委員 鈴木 紀夫
- 伊藤 敏哉
- 小澤 仁
- 高橋 正之